

福祉で紡ぐ明るい未来

長崎県立豊玉高等学校

二年 岡崎帆那

私が福祉について考えたときに思い浮かぶのは「助け合い」という言葉です。福祉とは私達にとって欠かせない存在です。人はみんなが支え支えられながら日々、一日一日を過ごしているのだと思います。

私がしたことのある福祉の活動は、この地域で行われていた清掃活動です。この活動を

する前、私は「嫌だなあ、面倒くさいなあ」とネガティブな感情ばかりを持っていました。しかし実際に参加してみると思いのほか楽しく、周りの人達と協力をしてすることは大切なんだと感じました。清掃活動中は、目を凝らしてゴミを探しました。普段なら拾うことのない見過ごしてしまいうものも取り除くことができ、地域がきれいになっっていくのを感じました。地域清掃は誰でも参加できるものです。地域清掃に参加することでゴミが減

って、地域がきれいになることで景観が良くなり、地域への愛着を深めることができます。また、地域清掃は、住民同士が顔を合わせ、コミュニケーションを取ることでできる良い機会になります。普段関わりのない住民とも交流が深まり、地域全体に一体感が生まれ、まとまることができます。地域清掃は、地域社会にとってたくさんの良い結果をもたらすと思います。

福祉は、誰もが幸せに暮らせる社会になるように協力し合うことです。障がいを持った方々や、高齢者、病気の人、低所得者、子供など支援が必要な人はたくさんいます。今後は私達がその支援が必要な人々に対してできることは何なのか、どのようにして向き合っていくのか、一人一人がしっかりと考えて取り組んでいくことが極めて重要になっていきます。生活支援、子育て支援、自立生活援助など多くの福祉サービスも必要になります。福祉の現場では様々な専門家が働いていますか、

その専門家だけではなく私達にもできることはあります。地域のイベントやボランティア活動に参加したり、寄付や募金、身近な人に声をかけることも立派な福祉になります。一見小さなことに見えるかもしれませんが、小さなことでも一つ二つ積み重ねていくことで福祉の輪を広げていくことができます。これから私は福祉に貢献できることがあるのなら積極的に挑戦していきたいと思います。私達が支え合うことでより良い社会を築いていき

たいです。